

## 陸自の災害派遣について

理事長 森 勉

7月初旬の西日本豪雨で私の故郷岡山県吉備地方は甚大な被害を受けました。この地方は、地震や火山の噴火は殆どなく台風も四国山地に遮られめつたに襲来しない災害とは無縁の大変住みやすい恵まれた地域でした。地球温暖化の影響か最近の天候気象は大変厳しくなりあの穏やかな清流小田川が突然牙をむいて襲い掛かって来ました。私の親戚の夫婦とペット（犬と猫）は奇跡的に救助されましたが家屋が二階まで浸水してしまいました。被災者にとって消防・警察、自衛隊そしてボランティアの方々の献身的な活動には只々合掌です。

災害に適切に対応するためには、国民一人一人が自らの力で自らを守る、地域社会が協力して助け合う、国・自治体等の公共機関が組織的に活動する所謂「自助、共助、公助」による総合的な対処が大切だと言われます。特に人命救助においては自然への畏敬の念、本能に基づく人間としての危機回避能力による「自助」の精神が最も重要であることに言を俟ちませんが、そ

れでも被災した場合72時間が勝負と言われます。このため陸上自衛隊は情報収集部隊、初動対処部隊等を全国約150カ所の駐屯地に常時待機させる等迅速な出動態勢を維持しています。

陸上自衛隊は災害が発生又はその恐れがある場合、公共性・緊急性・非代替性を考慮して県知事等の要請に応じて或いは部隊長等の自らの判断で災害派遣を実施します。陸上自衛隊が保持する組織力、機動力、兵站支援能力等を活用して、被災者の救命・救助、給水・給食・入浴等の生活支援、被災地の復旧、行方不明者の捜索等を実施します。創隊当初は地方自治体等では対応できなくなった場合出動し復旧等民需を圧迫しないため出来るだけ早く撤収していましたが（ラストイン→ラストアウト）、国民の期待の高まりに応じ現在では迅速に出動し被災者に出来るだけ長く寄り添い最後に撤収しています（ファーストイン→ラストアウト）。

防災は消防、防犯は警察、防衛は自衛隊が主として所掌するが、災害大国日本において災害はまさに今そこにある脅威です。この脅威から国民を守ることは自衛隊にとって国防と同様に極めて重要な任務であると確信しています。